

Enterprise Vault™ NSF 移行

12.3

Enterprise Vault™: NSF 移行

最終更新日: 2018-02-08。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	5
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	5
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	7
第 2 章	Enterprise Vault NSF 移行の概要	8
	NSF 移行について	8
第 3 章	NSF 移行: スクリプト	9
	スクリプトによる NSF の移行について	9
第 4 章	NSF 移行: ウィザードの使用	11
	NSF 移行について	11
	NSF 移行処理の概要	12
	NSF 移行の計画について	14
	NSF 移行の Welcome メッセージを編集する方法	14
	NSF 移行のための NSF ファイルの場所	15
	NSF 移行で NSF ファイルをアーカイブと照合する方法	16
	NSF 移行の標準メールテンプレート	16
	NSF 移行の失敗したアイテムと不適切なアイテム	18
	NSF 移行のアイテムの経過日数の限度	19
	メールファイルの限度と NSF ファイルのアクセス制御	19
	NSF 移行でのユーザーの実行制御一覧	20
	NSF 移行の複数のインスタンス	20
	NSF 移行によるユーザーへの影響	20
	NSF 移行の実行	20
	NSF 移行の監査	21

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

表 1-1 に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。

マニュアル	コメント
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。

マニュアル	コメント
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報については、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Enterprise Vault NSF 移行の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [NSF 移行について](#)

NSF 移行について

Enterprise Vault では、次のいずれかの機能を使用し、ユーザーの NSF ファイルからアイテムをアーカイブできます。

- Enterprise Vault Policy Manager (EVPN) を使うと、NSF ファイルからコンテンツをインポートするためのスクリプトを作成できます。
- NSF 移行を使えば、ウィザードの指示に従って NSF を移行できます。

本ガイドでは、EVPN を使ったスクリプトによる移行の概要と NSF 移行に関する概要を提供します。

NSF 移行: スクリプト

この章では以下の項目について説明しています。

- スクリプトによる **NSF** の移行について

スクリプトによる **NSF** の移行について

Enterprise Vault には、スクリプトによって内容を NSF ファイルから Enterprise Vault に移行するときに必要となる機能が用意されています。Policy Manager について詳しくは『ユーティリティガイド』を参照してください。

Policy Manager では、各 NSF ファイルの処理方法を制御できます。各 NSF ファイルに対して次の操作を実行できます。

- アーカイブ先を指定します。
- 移行したアイテムへのショートカットの作成を選択します。
- ショートカットを NSF ファイルに残すか、ユーザーのメールファイルの特定のフォルダに配置するかを制御します。
- 保持カテゴリを指定して、移行したアイテムに適用します。

メモ: 保持計画や分類機能など、Enterprise Vault の一部の機能は、指定した保持カテゴリを上書きできます。たとえば、NSF ファイルから保持計画を適用したアーカイブにアイテムを移動するとします。計画をどのように設定するかに応じて、計画に関連付けた保持カテゴリは、Policy Manager で指定した保持カテゴリを上書きする可能性があります。

- アイテムを移行した後の NSF ファイルの処理を制御します。

Policy Manager では、デフォルトの移行設定を行って、NSF ファイルをリストする初期設定ファイルを使います。個々の NSF ファイルで、デフォルトの移行設定を上書きすることもできます。

Policy Manager は、レポートモードまたは処理モードで実行できます。

レポートモードの場合、**Policy Manager** は初期設定ファイルにリストされたそれぞれの **NSF** ファイルをチェックして、ファイルの内容を移行できるかどうかを判定します。**Policy Manager** は、移行の準備が整っていないすべてのファイルが含まれている新しい初期設定ファイルを作成します。新しい初期設定ファイルでは、移行できない **NSF** ファイルに、**Policy Manager** を処理モードで実行するときに除外されるというマーク付けが行われます。

処理モードでは、**Policy Manager** によって、初期設定ファイルにリストされている **NSF** ファイルからアイテムが移行されます。また、**Policy Manager** では、処理モードでの実行時に新しい初期設定ファイルの書き込みも実行されて、正しく処理されたファイルへのマーク付けが行われます。ファイルの移行を妨げていた問題を修正した後は、新しいファイルを使って、失敗したファイルを移行できます。

少数の **NSF** ファイルのみを移行する場合は、**NSF** 移行ソフトウェアの使用を検討します。

p.11 の「[NSF 移行について](#)」を参照してください。

NSF 移行: ウィザードの使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [NSF 移行について](#)
- [NSF 移行処理の概要](#)
- [NSF 移行の計画について](#)
- [NSF 移行によるユーザーへの影響](#)
- [NSF 移行の実行](#)
- [NSF 移行の監査](#)

NSF 移行について

NSF 移行は、Domino および Notes NSF ファイルの内容を Enterprise Vault に移行する場合に使うことができるウィザードです。

NSF 移行の主な機能は次のとおりです。

- ボルトストアの選択。NSF 移行を実行するたびに、NSF ファイルの内容の移行先となるボルトストアを 1 つ選択できます。
- アーカイブへの NSF ファイルの関連付け。NSF ファイルがアーカイブに自動的に関連付けされるように NSF 移行を設定できます。この自動関連付けは、多数の NSF ファイルを移行する場合に便利です。NSF ファイルを手動でアーカイブに関連付けることもできます。
- 保持カテゴリの選択。NSF 移行では、NSF ファイルの内容の移行中に使うデフォルトの保持カテゴリを選択するように求められます。各 NSF ファイルに手動で保持カテゴリを選択することもできます。

メモ: 保持計画や分類機能など、Enterprise Vault の一部の機能は、指定した保持カテゴリを上書きできます。たとえば、NSF ファイルから保持計画を適用したアーカイブにアイテムを移動するとします。計画をどのように設定するかに応じて、計画に関連付けた保持カテゴリは、NSF 移行で選択した保持カテゴリを上書きする可能性があります。

- ショートカットの作成。NSF 移行を使うと、移行する内容へのショートカットを作成できます。また、このショートカットを元の NSF ファイルに作成するか、ユーザーメールファイルに作成するかを選択できます。ショートカットを含めるときに使うフォルダ構造を設定することもできます。
- 移行後の処理。移行済みの NSF ファイルを NSF 移行がどう処理するかを設定できます。たとえば、NSF 移行で自動的に NSF ファイルを削除できます。

NSF 移行処理の概要

このセクションでは、NSF 移行ウィザードの各ページで行う選択内容について説明します。

ディレクトリコンピュータの指定

Windows で NSF 移行を開始する場合、NSF ファイルの内容の移行先アーカイブを管理する Enterprise Vault ディレクトリコンピュータの名前を入力する必要があります。管理コンソール内で NSF 移行を実行する場合は、ディレクトリコンピュータを指定する必要はありません。

ボルトストアの選択

1 回の NSF 移行の実行では 1 つのボルトストアのみ指定できます。NSF ファイルを複数のボルトストア内のアーカイブに移行する場合は、NSF 移行を再実行する必要があります。必要に応じて、NSF 移行の複数のインスタンスを実行できます。

NSF ファイルの選択

移行する NSF ファイルを選択します。移行する NSF ファイルが保持されている場所にアクセスするには、UNC パスのみを指定する必要があります。

アーカイブへの NSF ファイルの関連付け NSF ファイルをアーカイブに関連付けるときに NSF 移行で使用する方法を選択します。NSF ファイルは、個別にアーカイブに関連付けることができます。または、NSF 移行で NSF ファイルをアーカイブに自動的に関連付けることもできます。これは、アーカイブのメールファイル名と各 NSF ファイルに格納された所有者プロパティを一致させることで行われます。移行する NSF ファイルの数が多い場合は、このオプションを選択した方が高速です。このオプションを選択した場合でも、自動での関連付けに失敗した NSF ファイルを手動で関連付けしたり、関連付ける NSF ファイルを変更したりできます。

デフォルトの保持カテゴリの選択

NSF ファイルからアイテムをアーカイブするとき使用するデフォルトの保持カテゴリを選択します。必要に応じて、後で、ウィザードで、各 NSF ファイルの保持カテゴリをレビューまたは変更できます。適切な保持カテゴリがない場合は、NSF 移行のこの段階で保持カテゴリを作成できます。

次の点に注意してください。

- 保持計画や分類機能など、Enterprise Vault の一部の機能は、指定した保持カテゴリを上書きできます。
- このウィザードで、5 年間などの保持期間を指定した保持カテゴリを作成できますが、2021 年 12 月 31 日のように固定の有効期限を指定した保持カテゴリを作成することはできません。固定の有効期限を指定した保持カテゴリを割り当てる場合は、ウィザードを実行する前に保持カテゴリが設定されていることを確認します。

アーカイブの選択

NSF ファイルがアーカイブに自動的に関連付けられるように選択した場合でも、NSF 移行で一部のファイルに関連付けできないことがあります。NSF 移行のこの段階で、NSF ファイルを手動でアーカイブに関連付けることができます。必要に応じて、一致した NSF ファイルを変更したり、完全に削除したりすることもできます。

保持カテゴリの選択

デフォルトでは、NSF ファイルのすべての内容は、ウィザードの前の段階で選択したデフォルトの保持カテゴリを使用して移行されます。ただし、この段階で、個別の NSF ファイルに別の保持カテゴリを選択することもできます。保持計画や分類機能など、Enterprise Vault の一部の機能は、これらの保持カテゴリを上書きできます。

ショートカットの設定

NSF 移行を使用すると、移行する内容へのショートカットを作成できます。また、このショートカットを元の NSF ファイルに作成するか、ユーザーメールファイルに作成するかを選択できます。

フォルダ構造の選択

ユーザーメールファイルにショートカットを含めるときに使用するフォルダ構造を設定できます。たとえば、複数の NSF ファイルを持つユーザーの場合、NSF 移行で 1 つのフォルダ構造にファイルの内容をマージすることも、ファイルごとに別々の構造を作成することもできます。

削除済みアイテムとカレンダーアイテムの設定

NSF 移行で、各 NSF ファイルのゴミ箱フォルダのアイテムを移行するかどうかを選択します。必要に応じて、[期限が切れていないカレンダーアイテムをアーカイブする]オプションを選択することもできます。

移行後の NSF ファイル設定

最後に、移行済みの NSF ファイルを NSF 移行がどう処理するかを設定できます。たとえば、NSF 移行で自動的に NSF ファイルを削除できます。

NSF 移行の計画について

次のセクションでは、NSF ファイルの移行の計画に役立つ情報を提供し、移行の効率を高めるためのいくつかのヒントを示します。

- 「[NSF 移行の Welcome メッセージを編集する方法](#)」
- 「[NSF 移行のための NSF ファイルの場所](#)」
- 「[NSF 移行で NSF ファイルをアーカイブと照合する方法](#)」
- 「[NSF 移行の標準メールテンプレート](#)」
- 「[NSF 移行の失敗したアイテムと不適切なアイテム](#)」
- 「[NSF 移行のアイテムの経過日数の限度](#)」
- 「[メールファイルの限度と NSF ファイルのアクセス制御](#)」
- 「[NSF 移行でのユーザーの実行制御一覧](#)」
- 「[NSF 移行の複数のインスタンス](#)」

NSF 移行の Welcome メッセージを編集する方法

NSF 移行は、各ユーザーのアイテムの移行を完了すると、3 つのメッセージのうちのいずれかを自動的に送信し、移行の完了をユーザーに通知します。

表 4-1 は 3 つのメッセージをリストし、それぞれが送信される状況を説明しています。

表 4-1 NSF 移行メッセージ

メッセージ	件名と説明
NSFMigratedMessage	NSF ファイル (<i>{0}</i>) はアーカイブされました。 移行されるアイテムにショートカットを作成しないように選択した場合、NSF 移行は、アーカイブされたアイテムを所有するユーザーにこのメッセージを送信します。
NSFMigratedMessageMailFile	NSF ファイル (<i>{0}</i>) はアーカイブされました。アイテムへのショートカットは <i>{1}</i> 内にあります。 <i>{1}</i> は、ショートカットを含んでいるフォルダの名前です。 メールファイルにショートカットを配置するように選択した場合、NSF 移行は、アーカイブされたアイテムを所有するユーザーにこのメッセージを送信します。
NSFMigratedMessageNSF	NSF ファイル (<i>{0}</i>) はアーカイブされました。アイテムへのショートカットは NSF ファイル内にあります。 NSF ファイルにショートカットを配置するように選択した場合、アーカイブされたアイテムを所有するユーザーにこのメッセージを送信します。

3 つのすべてのメッセージにおいて、*{0}* は NSF ファイルの名前です。

これらの 3 つのメッセージは、EVMessages.nsf というファイルにあります。このファイルは、Enterprise Vault プログラムフォルダの %Languages%\Mailbox Messages%\lang% フォルダにあります (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault%\Languages%\Mailbox Messages%\lang%)。ここで *lang* は使っている言語を表します。

この 3 つのメッセージにはプレースホルダテキストが含まれており、このテキストは必要に応じて編集できます。実行セキュリティ警告を回避するには、[カレントデータベースへのアクセス]権限があるアカウントを使って、EVMessages.nsf のメッセージを編集する必要があります。

このメッセージを編集したら、EVMessages.nsf を保存し、これをすべての Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault プログラムフォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にコピーします。

NSF 移行のための NSF ファイルの場所

さまざまな場所にある NSF ファイルを移行する場合、移行の一覧に追加する前にそれらのファイルを検索する必要があるため、時間がかかることがあります。一度の操作ですべての NSF ファイルを一覧に追加できるように、すべての NSF ファイルを 1 つの場所に移動してから NSF 移行を実行してください。

メモ: 移行する NSF ファイルが保持されている場所にアクセスするには、UNC パスを指定する必要があります。これは、NSF ファイルの内容を移行するバックグラウンドサーバープロセスが、NSF 移行ウィザードを実行するコンピュータとは同じコンピュータにならない場合があるためです。

NSF 移行で NSF ファイルをアーカイブと照合する方法

次の手順では、複数のボルトストア間に分散されているアーカイブに多数の NSF ファイルを関連付けする場合に NSF 移行を効率的に使う方法について説明します。

- NSF 移行を実行し、最初のボルトストアを選択します。
- 関連付けされているアーカイブが選択したボルトストアにない可能性があるファイルも含め、移行する予定のすべての NSF ファイルを追加します。
- [NSF ファイルにアーカイブを自動的に割り当てる]オプションを選択します。
- 後で、NSF 移行のウィザードに、関連付けされていないすべての NSF ファイルが赤色で表示されます。この一覧の[アーカイブ先]列の見出しをクリックして、関連付けされているアーカイブがないすべての NSF ファイルをグループ化します。
- これらすべての NSF ファイルを選択して[削除]をクリックします。
- NSF 移行で正常に移行した NSF ファイルに対して行う処理を尋ねられたら、[削除する]オプションまたは[非表示にして移行する残りの NSF ファイル数を分かりやすくする]オプションを選択します。

NSF 移行は、正常に移行した NSF ファイルを非表示にするか、または削除します。オペレーティングシステムが隠しファイルを非表示にするように設定されている場合、NSF 移行の次回実行時に隠しファイルは表示されません。他のすべてのボルトストアについてこの処理を繰り返すと、残っている NSF ファイルは自動的に関連付けされなかったファイルのみになります。これらのファイルを個別に調べて、NSF 移行の再実行時に適切なアーカイブを選択することができます。

NSF 移行の標準メールテンプレート

すべての NSF ファイルは Domino テンプレートに基づいています。NSF 移行を使って、レジストリ値に定義されている Domino テンプレートの一覧に基づく任意の NSF ファイルを移行できます。NSF 移行は標準メールテンプレートとしてこのレジストリ値のテンプレートを処理します。他の Domino テンプレートを基にした NSF ファイルでは、ファイルの移行を続行する場合に、NSF 移行は予想外の結果が発生する場合があることを警告します。ただし、メールベースのファイルであることが確かな場合は、続行してそのファイルを移行することができます。

標準テンプレートの一覧は、すべてのストレージサーバー上の次のレジストリキーにある **DominoMailTemplates** というレジストリ文字列値によって決まります。


```

HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
  ¥Wow6432Node
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥Agents

```

表 4-2 に、NSF 移行で標準として処理される Domino メールテンプレートのデフォルトの一覧を示します。この一覧にないテンプレートに基づく NSF ファイルを定期的に移行する場合には、標準テンプレートに基づいていないファイルであることを警告されないようにするには、そのテンプレート名を **DominoMailTemplates** のカンマ区切りの一覧に追加します。この操作はすべてのストレージサーバーで行う必要があります。

表 4-2 標準メールテンプレート

テンプレート名	ファイル名	説明
dwa7	dwa7.ntf	Domino Web Access (7)
EVdwa7	ev_dwa7.ntf	Domino Web Access (7) (Enterprise Vault)
EViNotes6	ev_iNotes6.ntf	Domino Web Access (6) (Enterprise Vault)
EVR6Mail	ev_mail6.ntf	メール (R6) (Enterprise Vault)
EVR7Mail	ev_Mail7.ntf	メール (R7) (Enterprise Vault)
EVR8Mail	ev_mail8.ntf	メール (R8) (Enterprise Vault)
EVR85Mail	ev_mail85.ntf	メール (R85) (Enterprise Vault)
EVR9Mail	ev_mail9.ntf	メール (R9) (Enterprise Vault)
ExtR50Mail	mail50ex.ntf	拡張メール (R5.0)
ExtR6Mail	mail6ex.ntf	拡張メール (6)
ExtR7Mail	mail7ex.ntf	拡張メール (R7)
iNotes5	inotes5.ntf	iNotes Web Access (R5)
iNotes6	inotes6.ntf	Domino Web Access (6)
iNotes60	inotes60.ntf	iNotes Web Access (R6.0)
StdR50Mail	mail50.ntf	メール (R5.0)

テンプレート名	ファイル名	説明
StdR6Mail	mail6.ntf	メール (R6)
StdR7Mail	mail7.ntf	メール (R7)
StdR8Mail	mail8.ntf	メール (R8)
StdR85Mail	mail85.ntf	メール (R8.5)
StdR9Mail	mail9.ntf	メール (R9)

NSF 移行の失敗したアイテムと不適切なアイテム

デフォルトでは、NSF 移行は、失敗したアイテム、不適切なアイテム、ショートカットをユーザーのメールファイルに移動するのではなく、NSF ファイルに残します。

この動作は、次の DWORD 型レジストリ値で制御できます。

- MoveFailedArchivalNotes
- MoveNotEligibleForArchiveNotes
- MoveShortcutsToMailFile

これらの値はすべて次のキーの下にあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥Software
  ¥Wow6432Node
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥Agents
```

これらの値はすべて、デフォルトで 0 に設定されています。

MoveFailedArchivalNotes を 1 に設定すると、NSF 移行では、失敗したアイテムをユーザーのメールファイルに移動します。

MoveNotEligibleForArchiveNotes を 1 に設定すると、NSF 移行では、不適切なアイテムをユーザーのメールファイルに移動します。

MoveShortcutsToMailFile を 1 に設定すると、NSF 移行では、ショートカットをユーザーのメールファイルに移動します。

NSF 移行のアイテムの経過日数の限度

デフォルトでは **NSF 移行**は、経過日数に関係なく **NSF ファイル**のすべてのアイテムを処理します。これは、ショートカットに変換されるアイテムにも、移行に適切ではないアイテムなど、メールファイルに移動される他のアイテムにも適用されます。

この動作は、**DWORD** 型の 2 つのレジストリ値 **ShortcutMoveRestrictDays** と **NotesMoveRestrictDays** において日数単位で経過日数のしきい値を指定することで制御できます。どちらの値も次のキーの下にあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥Software
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥Agents
```

どちらの値もデフォルトでは **0** に設定されており、この場合しきい値は設定されていません。しきい値を設定するには、**DWORD** 値を日数に変更します。

ShortcutMoveRestrictDays をゼロ以外の値に設定すると、**NSF 移行**では、対象のすべてのアイテムが移行され、ショートカットが作成されます。初期状態で、すべてのショートカットは **NSF ファイル**にあります。**NSF 移行**では、指定した日数を経過したアイテムへのショートカットは、**NSF ファイル**からメールファイルに移動されることはありません。

NotesMoveRestrictDays をゼロ以外の値に設定すると、移行に適切ではないアイテムなど他のアイテムは、指定した日数内にある場合に限りメールファイルに移動されます。それ以外の場合は、**NSF ファイル**内に残ります。

メールファイルの限度と NSF ファイルのアクセス制御

各ユーザーのメールファイルの最大サイズは、**NSF 移行**で配置されるショートカットとその他のアイテムを含めるのに十分である必要があります。サイズが十分でないと、そのファイルの移行は失敗します。移行前に、メールファイルの限度が適切に設定されていることを確認してください。ただし、サイズが原因でいずれかの **NSF ファイル**の移行が失敗した場合は、該当するメールファイルを書き留め、ファイルの限度を調整してから再度処理することができます。

Domino アーカイブユーザーには、移行する **NSF ファイル**に対する十分なアクセス権が必要です。十分なアクセス権がないと、該当する **NSF ファイル**の移行が失敗します。**Domino** アーカイブユーザーの設定について詳しくは『インストール/設定ガイド』を参照してください。

NSF 移行でのユーザーの実行制御一覧

NSF 移行では、移行時にユーザーのメールファイルに新しいフォルダが作成される可能性があります。これらのフォルダに対する特定の操作は **Domino** アーカイブユーザーによって署名されます。ユーザーが新しいフォルダを開いたときに実行セキュリティ警告が表示されないようにするには、**Domino** アーカイブユーザーに[カレントデータベースへのアクセス]権限を許可するように、該当するユーザーの実行制御の一覧を設定する必要があります。

NSF 移行の複数のインスタンス

NSF 移行の複数のインスタンスを実行できます。

NSF 移行によるユーザーへの影響

このセクションでは、NSF ファイルを移行した後のユーザーから見た変更点の概略を紹介します。

各 NSF ファイルの移行が正常に完了するとすぐにファイルの所有者はファイルの内容が **Enterprise Vault** に移行されたことを通知する自動メッセージを受け取ります。

移行されたアイテムへのショートカットが作成されるように選択した場合は、元のアイテムではなくそれらのショートカットがユーザーに表示されます。選択に従って、ショートカットは元の NSF ファイルか、メールファイルの[フォルダ]ビューの下に配置されます。

ショートカットをユーザーメールファイルに作成した場合、各ユーザーには、[フォルダ]ビューの下に次の 2 つのフォルダ構造のうち的一方が表示されます。

- ユーザーの NSF ファイルの内容をすべて含む 1 つの結合フォルダ構造。
- 各 NSF ファイルの名前が付けられた一連のフォルダ。各フォルダには 1 つの NSF ファイルの内容のみが含まれます。

移行が成功した後に NSF ファイルを削除するように選択している場合、ユーザーはこれらのファイルを利用できなくなります。

NSF 移行の実行

NSF 移行を初めて実行する場合、処理に慣れるまでは、少数のファイルのみを移行するようにしてください。処理に慣れてきたら、移行するファイル数を増やします。

NSF 移行を実行する前に、次のことを確認してください。

- 移行する NSF ファイルは使用中ではありません。
- ボルトサービスアカウントには NSF ファイルへのフルアクセス権があります。

NSF 移行を実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[アーカイブ]を右クリックし、[NSF のインポート]をクリックします。

また、Windowsでのショートカット[NSF メールの移行(インポート)]をクリックして NSF の移行を開始できます。
- 2 ウィザードページの手順に従って適切なオプションを選択します。

NSF 移行の監査

Enterprise Vault の監査を設定し、1 つまたは両方の[NSF 移行]監査オプションを選択している場合、正常に終了した NSF 移行処理が監査されます。

『Veritas Enterprise Vault™ 管理者ガイド』の「監査」を参照してください。